



年 組 名前

道新でワークシート

冬の知恵と工夫が凝縮

市郷土資料館 昔の暖房、防寒具並ぶ



【江別】明治・大正から昭和中期ごろまでの、厳しい寒さの中の生活を振り返る「冬の暮らし展」が、市郷土資料館ロビー（緑町西1）で開かれている。ストーブなどの暖房器具や防寒具など約60点が展示され、長い冬を乗り切った当時の人々の苦労がしのばれる。

展示は、外とうや角巻きを飾った「冬のおおい」、当時の居間を再現、道具を置いた「冬のくらし」「冬のおそび」などがある。

注目は「暖房器具のいろいろ」コーナー。いろいろや火鉢、まきストーブ、石炭ストーブなど今は目にすることが少ないものばかり。特に石炭ストーブは「大正期から昭和にかけて普及。大正中期に輸入されたドイツ製ストーブをきつ

戦前を中心に厳しい冬の生活を振り返った市郷土資料館ロビー展「冬の暮らし展」

けに、省エネで部屋を汚さない高性能ストーブが国産化された」などと詳しく説明した。投げこみ式（タルマストーブなど）、北海道独特の釜が2対あるルンペンストーブ、高性能の貯炭式（フクロクストーブなど）などの現物を展示し、分かりやすく解説している。

企画した遠藤ゆきの学芸員は「電化製品もない時代、人々が知恵と工夫で過した暮らしに触れることで、温かい気持ちになってもらえたら」と話している。

入場無料。3月21日までの午前9時半～午後5時。月曜休館（祝日・振り替え休日を除く）。問い合わせは同館 ☎385・6466 へ。（山本哲朗）

2019年12月18日（水）朝刊 札幌近郊版 16面（記事・写真については二次利用の許諾を得ております）

- ①「冬の暮（く）らし展（てん）」で展示（てんじ）されている暖房器具（だんぼうきぐ）にはどのようなものがありますか。
- ②昔の暖房器具（だんぼうきぐ）は、現在（げんざい）のものとのどのような違（ちが）いがありますか。考えられることを書きましょう。